

## 決 算 審 査 特 別 委 員 会 記 録

令 和 7 年 10 月 1 日（水）午 後 2 時 38 分 開 議

### ○審査日程

- 1 議案自第128号至第146号分科会報告、意見表明、採決

### ○出席委員

石 川 美 香 君	吉 川 英 二 君
茂 呂 一 弘 君	岳 田 雄 亮 君
須 藤 博 文 君	岡 崎 純 子 君
黒 澤 和 泉 君	野 島 友 介 君
山 崎 真 彦 君	大 平 真 弘 君
渡 邊 惟 大 君	桜 井 秀 夫 君
青 山 雅 紀 君	伊 藤 隆 広 君
前 田 健 一 郎 君	石 川 弘 君
小 坂 さ と み 君	三 井 美 和 香 君
渡 辺 忍 君	安 喰 初 美 君
梶 澤 洋 平 君	守 屋 聡 君
蛭 田 浩 文 君	伊 藤 康 平 君
阿 部 智 君	松 坂 吉 則 君
植 草 毅 君	岩 井 雅 夫 君
亀 井 琢 磨 君	田 畑 直 子 君
川 合 隆 史 君	麻 生 紀 雄 君
段 木 和 彦 君	佐々木 友 樹 君
盛 田 眞 弓 君	櫻 井 崇 君
森 山 和 博 君	酒 井 伸 二 君
小 松 崎 文 嘉 君	向 後 保 雄 君
宇 留 間 又 衛 門 君	中 島 賢 治 君
三 須 和 夫 君	石 井 茂 隆 君
米 持 克 彦 君	石 橋 毅 君
白 鳥 誠 君	三 瓶 輝 枝 君
中 村 公 江 君	野 本 信 正 君

### ○説明員

市 長	神 谷 俊 一 君	副 市 長	大 木 正 人 君
副 市 長	橋 本 直 明 君	総合政策局長	藤 代 真 史 君
総 務 局 長	久 我 千 晶 君	財 政 局 長	勝 瀬 光 一 郎 君

**暫 定 版**

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（10月1日）

市 民 局 長	那 須 一 恵 君	保 健 福 祉 局 長	今 泉 雅 子 君
こども未来局長	大 町 克 己 君	環 境 局 長	秋 幡 浩 明 君
経済農政局長	安 部 浩 成 君	都 市 局 長	鹿子木 靖 君
建 設 局 長	山 口 浩 正 君	消 防 局 長	市 村 裕 二 君
水 道 局 長	山 田 裕 之 君	会 計 管 理 者	折 原 亮 君
病院局次長	橋 本 欣 哉 君	市 長 公 室 長	山 崎 哲 君
総 務 部 長	中 尾 嘉 之 君	財 政 部 長	大 畑 晃 君
教 育 長	鶴 岡 克 彦 君	教 育 次 長	中 島 千 恵 君
選挙管理委員会 事 務 局 長	清 水 公 嘉 君	人 事 委 員 会 事 務 局 長	桑 本 茂 樹 君
農 業 委 員 会 事 務 局 長	渡 部 義 憲 君	代 表 監 査 委 員	宍 倉 輝 雄 君
○議会事務局			
事 務 局 長	香 取 徹 哉 君	次 長	寺 崎 勝 宣 君
議 事 課 長	安 西 雅 樹 君	議 事 課 長 補 佐	佐 藤 大 介 君
議 事 班 主 査	石 黒 薫 子 君		

## 午 後 2 時 38 分 開 議

○委員長（麻生紀雄君） ただいまから、決算審査特別委員会を開きます。

出席委員は50名、委員会は成立いたしております。

本日の審査日程につきましては、配付のとおりでございます。

## 議案自第128号至第146号分科会報告、意見表明、採決

○委員長（麻生紀雄君） それでは、議案第128号から第146号までの19議案について、分科会報告、意見表明、採決を行います。

分科会報告につきましては、配付のとおりでございます。

## 分科会報告を添付

○委員長（麻生紀雄君） 意見表明の通告が参っておりますので、通告順に従いお願いいたします。酒井伸二委員。

○38番（酒井伸二君） 公明党千葉市議会議員団を代表して、令和6年度決算議案の認定に賛成の立場より意見表明を行います。

令和6年度決算における一般会計・特別会計の実質収支は、55億3,700万円の黒字となりました。一般会計においても29億8,200万円の実質収支が確保された一方で、財政調整基金残高は対前年度比50億円の減で99億円となり、将来不安も感じる厳しい財政運営であったと捉えております。

しかしながら、病院事業の累積赤字額や基金からの借入残高は依然として多額ではあるものの、全会計市債残高で37億円、基金借入残高で10億円、いずれも対前年度比で削減するなど、中期財政運営方針を踏まえた財政運営であったことや、実質公債費比率及び将来負担比率は、引き続き同方針で定められた水準の範囲内となったほか、資金不足比率はいずれの会計においても発生しておらず、財政の健全性が一定程度保たれたことが確認できました。

各種施策につきましては、長期化する物価高騰への機動的な対応をはじめ、J R 駅周辺等への防犯カメラ設置推進、避難行動要支援者の個別避難計画の作成や犯罪被害者等支援などの安全・安心の取組、超高齢化社会への対応として、福祉まるごとサポートセンターにおけるアウトリーチ支援やフレイル予防として医療専門職の全区配置が進められました。また、市民福祉の向上では、こども発達相談室の開設や障害者就労施設等からの優先調達の大幅増、子ども医療費助成の対象拡大に、不登校対策における諸施策が拡充されたほか、都市の魅力・活力の向上の視点からは、税源の涵養に資する企業立地、脱炭素先行地域事業の展開やバス路線維持の支援などが実施されました。厳しい財政運営の中、市民生活に密着した幅広い施策の展開がなされており、評価をいたすところであります。

引き続き、長期化する物価高など見通しの効かない社会情勢ではありますが、市長を初め、執行部の皆様には、財政の健全化とともに、市民福祉の向上、活力ある千葉市を築くために、なお一層の努力を求め、公明党千葉市議会議員団を代表しての意見表明といたします。

○委員長（麻生紀雄君） 岳田雄亮委員。

○4番（岳田雄亮君） 自由民主党千葉市議会議員団の岳田雄亮でございます。

会派を代表いたしまして、決算議案につきまして、認定の立場から意見表明を申し上げます。

令和6年度の一般会計決算は、市税や地方消費税交付金が予算に比べ増収となったことに加え、歳出において効率的な予算執行が行われた結果、実質収支は約30億円の黒字を確保したほか、全会計市債残高や基金借入金残高を削減するなど、財政運営の健全性が一定程度維持されたものと評価できるところであります。

次に、各種施策についてであります。

物価高騰対策として、市民に対する定額減税調整給付金や低所得世帯への重点支援給付金をはじめ、学校・保育施設等給食費支援や中小企業者へのエネルギー価格高騰支援など、国の取組への対応に加え、市独自の施策を機動的に実施し、市民生活や事業活動への影響を最小限に抑えた点を評価いたします。保健福祉施策においては、引き続き地域包括ケアシステムの構築・強化を推進し、子育て支援施策では幼稚園の認定こども園への移行促進や保育所整備など、待機児童ゼロ継続に向けた取組が進められました。

さらに、地域経済の活性化に関しては、企業立地の促進や観光振興などにより、都市の活力維持に資する施策が着実に実施されました。

以上の点を踏まえ、令和6年度一般会計決算につきましては、適正に執行され、財政の健全性の維持に努められたものと認められることから、認定すべきものと考えます。

一方で、今後も、多くの市有施設が更新時期を迎え、市債残高の増加が見込まれる中、財政調整基金残高の減少により、厳しい状況が継続することが見込まれておりますので、新年度予算編成にあたっては、適切な財政運営に努めていただくとともに、市民の要望や我が会派の指摘への的確な対応を強く求め、自由民主党千葉市議会議員団の意見表明といたします。

## 暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（10月1日）

○委員長（麻生紀雄君） 小坂さとみ委員。

○17番（小坂さとみ君） 立憲民主・無所属千葉市議会議員団の小坂さとみです。

会派を代表し、令和6年度の決算議案に認定の立場から意見表明を行います。

令和6年度の一般会計決算は、歳出が、令和2年度に次いで、過去2番目の規模となったものの、基金償還10億円を実施した上で、前年度並みの29億8,000万円の黒字を確保されました。さらに、健全化判断費のうち実質公債費比率は10.4%、将来負担比率においても着実に減少させ、中期財政運営方針で定める水準の範囲内におさめるなど、財政の健全性の維持に努められたと評価いたします。

一方で、財政調整基金残高については、前年度と比較し、50億円減額し、99億円となり、予断を許さない状況と考えます。

また、物価高騰対策のうち、推奨事業については、一般財源から、9億8,000万円を拠出し、年々自治体の負担が増加傾向であり、今後の財政への影響が懸念されることから国へ十分な財源を求める必要があります。

各施策は、風水害被害想定調査による対策強化、地域活性化に資する幕張新都心のまちづくり、女性のためのつながりサポート事業の充実、（仮称）動物愛護センター整備の推進、保育所等の待機児童ゼロの継続、市有施設等への太陽光発電設備の設置、民間活力の導入による地方卸売市場再整備事業、女性に向けた起業支援の充実、みどりの食料システム戦略の推進、官民連携によるウオーカブル推進、リノベーションまちづくり、動物公園の管理運営とリニューアル、自転車を活用したまちづくり、消防防災ヘリコプターの運航に係る県市間連携、市立病院による安定的な医療提供体制の維持、アフタースクールのきめ細やかな保育体制、不登校支援の充実など、我が会派が求めてきた施策の着実な推進が確認できたことから評価するものです。

以上が決算認定の主な理由ですが、今後も、執行部の皆様には、市民生活において緊急性の高い施策や、将来のまちづくりと持続可能な都市経営に資する施策の推進に、御尽力いただくことをお願いしまして、我が会派の意見表明といたします。

○委員長（麻生紀雄君） 佐々木友樹委員。

○34番（佐々木友樹君） 日本共産党千葉市議会議員団の佐々木友樹です。

会派を代表して2024年度決算に不認定の立場から意見表明を行います。

不認定とする第1の理由は、いわゆる大型開発については巨額の投資はないものの、稲毛海浜公園リニューアル事業に4億6,368万円、中央公園・通町公園の連結強化事業に16億5,034万円、千葉駅東口西銀座B地区優良建築物等整備に3億2,000万円等をつぎ込み、担税力のある大企業にも取得した固定資産に係る固定資産税・都市計画税の相当額まで助成するなど企業立地促進事業に19億6,939万円を投じているからであります。

第2の理由は、地方自治法の本旨であります、住民福祉の増進が図られたのかという視点から決算の分析を行いました。引き続き、福祉カットや公共料金の値上げが行われた決算であることです。

子どもの医療費助成の拡充やバス路線維持等地域公共交通支援、中学校・市立高等学校等の学校体育館へのエアコン整備など学校施設環境の充実のための事業が実施された一方で、国民健康保険料の値上げ2億9,152万円、介護保険料の値上げ32億円など、物価高騰のもとでも市民生活や福祉が削られています。急がなくてもよい開発は見直すべきであります。

第3の理由は、物価高騰で苦しむ市民の願いである消費税減税を国に求めようとせず、事業費も事業期間も効果も不透明な新湾岸道路を千葉県とともに推進する一方で、市債の有効活用や財政調整基金を取り崩すなどして、市民生活の向上のための物価高騰対策への上乗せや賃上げへとつなげる事業を実施しようとしなからであります。

以上、地方自治法の本旨である、住民福祉の増進に向けて、さらなる物価高騰のもとで厳しい生活を余儀なくされている市民に寄り添う市政運営を行うことと、急がなくても大型開発は見直して、市民生活を守り、向上させるための施策などを求め、日本共産党千葉市議会議員団を代表しての意見表明といたします。

○委員長（麻生紀雄君） 渡辺惟大委員。

○11番（渡邊惟大君） 日本維新の会ちばの渡辺惟大です。

会派を代表いたしまして、認定の立場から意見表明をいたします。

令和6年度一般会計の決算は、歳出が5,257億円と過去2番目の規模で、前年度よりも232億円増となりましたが、市税収入が前年度と比べて40億円の増収となったことから、歳入は5,295億円となり、実質収支は30億円の黒字となったことを評価いたします。

また、全会計の市債残高は前年度比で37億円の減少となったほか、実質公債費比率が前年度比0.3ポイント減の10.4%。将来負担比率も前年度比2.3ポイント減の120.1%と改善されていることについても評価いたします。

一方で、財政調整基金の残高は、令和3年には189億円だったのが、令和6年度決算では前年度比50億円の減となる99億円まで低下しています。将来の財政に与える影響を懸念しております。

施策については、子ども医療費助成拡充や保育所、子どもルームの待機児童ゼロの維持などの子育て支援、フレイルが疑われる高齢者への指導を行う医療専門職の全区配置や、こども発達相談室開設による発達障害支援強化などの福祉施策、体育館の冷暖房設備導入に向けた実施設計等の教育環境の改善、企業立地促進などによる地域経済活性化への取組、また、エネルギー価格の影響を受ける中小企業や公共交通企業への支援の取組など、現状に対応し、かつ、未来につながる予算執行であったことを評価いたします。

今後も、財政健全性を維持しつつ、必要な事業を着実に計画・実施していただくことを求め、日本維新の会ちばを代表しての意見表明とさせていただきます。

○委員長（麻生紀雄君） 以上で意見表明を終わります。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案のうち、議案第128号を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、可決することに決しました。

続いてお諮りいたします。第132号から第134号まで、第136号から第138号まで、第140号、第141号及び第143号から第145号までの11議案を原案どおり認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） 御異議ないものと認め、認定することに決しました。

続いて、電子採決システムにより採決をいたします。

お諮りいたします。議案第129号から第131号まで、第135号、第139号、第142号及び第146号

**暫 定 版**

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

令和7年決算審査特別委員会記録（10月1日）

---

の7議案を原案どおり認定することに賛成または反対のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタン押下〕

○委員長（麻生紀雄君） 押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（麻生紀雄君） ないものと認め、確定いたします。

採決の結果を申し上げます。賛成多数であります。よって、認定することに決しました。

以上をもちまして、決算審査特別委員会を終了いたします。

長期間慎重審査ありがとうございました。

午 後 2 時 55 分 散 会

---

千葉県議会委員会条例第29条の規定により署名する。

決算審査特別委員長      麻 生 紀 雄